

スーパーバイオ・オーガニック工法

NETIS登録  
CG-980020-V

# SUPER BIO ORGANIC

開発行為における環境保全の必要性が高まるにつれて、モルタル吹付工やコンクリート法面に緑化工を施す事例が増えつつあります。しかし、安易に既設面に生育基盤を造成しても、**地山から水分を供給できない為、乾燥害→植生不良→基盤の消失**に至ります。また、根の伸長域を確保する為に**モルタル面を部分的に取り壊す**などの事例も見られ、**建設廃棄物を発生**させるだけでなく、**再び法面の不安定化を招く事**になります。

日本特殊緑化協会では、バイオ・オーガニック工法の特性を基に、基礎吹付工(t=3cm)との併用による**既設モルタル・コンクリート緑化工法：スーパーバイオ・オーガニック工法を開発**しました。

当工法は、**既設構造物を破壊する事無く**厚みのある生育基盤層を造成し、植生を成立させます。特殊袋状マットに注入した生育基盤は、**乾燥害等による基盤の流亡が全く無く**、確実にモルタル法面等に多様な植物群落を実現します。これらは、100箇所を超える全国の施工実績が実証しています。

乾燥害による植生基盤の消失



施工前(既設モルタル吹付面)



→ → 施工手順 → →

基礎吹付工



フォーム布設工



生育基盤材注入工



施工7ヵ月後の植生状況



## コンクリート・モルタル法面に緑を創出します

-モルタル削孔の有効性試験-

- 施工事例 -

愛媛県：生育基盤厚とモルタル削孔の有効性試験



低木類の根系の発達



上記試験結果より、生育基盤厚13cmを造成した試験区と既設モルタル面の削孔試験区(4箇所/㎡及び9箇所/㎡)の植生被度・密度に大きな差異は見られなかった。

兵庫県：六甲砂防新設モルタル吹付面

施工4年後



秋田県：山腹斜面の既設モルタル吹付面

施工4年後



施工3年後の植生



施工5年後の植生



佐賀県：国道203号浪瀬地区法面工事

施工8年後

